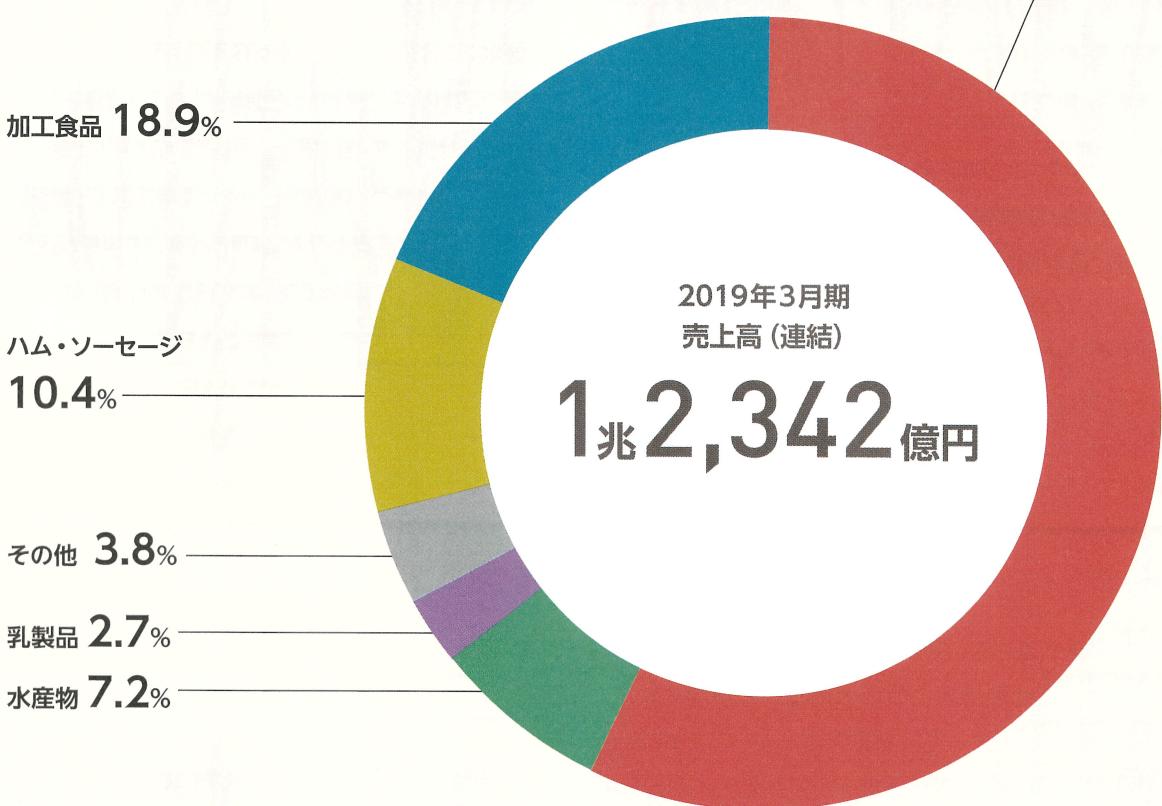


# おいしさの感動と 健康の喜びを世界の 人々と分かち合いたい

ニッポンハムグループは、現在、世界22の国・地域に580拠点を展開しています。

私たちには世界の「食」を担う責任があることを自覚しなければなりません。

そして同時に、時代に先駆けて食の新しい道を切り拓く責任もあるのです。



世界 **22** の国・地域に **580** 拠点を展開\*

国内食肉販売シェア

20.5% No.1



食肉

57.0%

多角的に事業を展開しているニッポンハムグループですが、グラフを見ても分かるとおり、食肉事業が大きな割合を占めています。次ページからは、食肉の安定供給に向けた各社の取り組みを紹介します。

国内食肉販売シェア25.0%に向けて、継続的・安定的に供給可能な食肉バリューチェーン構築(バーティカル・インテグレーション・システムの深化、CSR調達の推進など)により顧客や消費者から一層支持される事業構造の確立に注力しています。



ハム・ソーセージ、加工食品

労働人口の減少に伴う人件費の高騰、健康志向や食品の安全・安心への意識の高まりといった急速な社会変化に対応するために、お客様視点に立ったヒット商品の開発や設備投資による生産の効率化を進めています。



水産物

世界的な消費増に伴い、水産資源の争奪戦が行われている中、独自調達ルートの確立に向け、トルコ、タイ、ロシアなど海外での活動拠点を広げています。持続可能な水産資源の取り組みが注目される中、ASC、MSC認証を取得した養殖魚、天然魚の取り扱いを増やしていきます。



乳製品

チーズの原料調達力強化に向けて、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)、日欧EPA(経済連携協定)締結の後押しもあり、今後の市場拡大を見据え、乳製品や新規原料調達国の調査・検討を行っていきます。

グループ会社数 93社\*

\*2019年4月1日現在(日本ハム(株)を含む)

# 食の安定供給への取り組み



世界的な人口増加に伴う食の取り合いが危惧されている一方、国内では食肉自給率の低下や人手不足が問題になっています。そのような状況下で、ニッポンハムグループが食の安定供給に向けてどのような取り組みを行っているのか見てみましょう。

## 国内畜産農家数は減少する一方…



出典: 農林水産省 畜産統計調査

### 取り組み

#### バーティカル・インテグレーション・システム



自社で一貫して行います

## 取り組み

### 委託農家へのサポート

日本ホワイトファーム(株)宮崎生産部の鶏を肥育する農場はすべて委託農場です。宮崎生産部物流課では鶏を鶏舎から出荷し、次の肥育までの作業を請け負っています。

また、鶏舎で発生した簡易的な修理など、多くの作業を物流課が請け負います。それにより、農家の



方々の労働負担軽減や休日確保につながっています。今後も農家の方々の肥育に感謝し、課題解決へ取り組むとともに、持続的な鶏事業に貢献していきます。



#### 委託農家 黒木 誠様の声

私は日本ホワイトファーム(株)へ、鶏ふん搬出・鶏舎清掃・石灰散布を依頼しています。その分時間が確保でき、また、きれいに作業を行っていただいているので、大変助かっています。日本ホワイトファームの方々は、鶏の肥育成績向上のことなど親身になって一緒に考えてくださいます。鶏舎は53年続いており、私は3代目にあたります。日本ホワイトファームとの信頼関係があるからこそ今に至っており、今後も継続して取引をお願いしたいと思っています。

## 取り組み

### 次世代の人財育成 帯広畜産大学との連携

日本ハム(株)は帯広畜産大学と2017年12月に包括連携協定を結び、ニッポンハムグループの農場や工場において、同大学の学生や教員向けに実地研修を行っています。研修では豚や鶏の農場、工場の内部を見学し、仕事内容について学んでいただきました。より現場に近い目線で研修を行うことによって、次世代の人財育成・畜産業の振興に貢献していきます。

#### プログラム

- ・インターフーム(株) 農場見学  
尿処理施設見学
- ・日本フードパッカー(株) 処理ライン見学  
DVD視聴および工場見学
- ・日本ホワイトファーム(株) 製造ライン見学  
DVD視聴および工場見学



#### 研修を受けた丸子 夏聖さんの声

動物の健康・食品衛生・防疫など、大学の講義で学んだ知識が実際の現場でどのように活用されているか教えていただき、教科書では得られない貴重な経験ができました。

日本ホワイトファーム(株)知床食品工場視察の様子



## 畜産業の未来を変える!



# スマート養豚プロジェクト

(インターファーム(株) 知床事業所)

当プロジェクトでは情報機器(IoT)・人工知能(AI)を活用して、豚の飼育状況をリアルタイムに把握・判断する技術の開発に取り組んでいます。このような先端技術開発に積極的に取り組み、実装していくことで、効率的かつ生産性の高い農場運営を実現し、日本全体の畜産業に貢献することを目指しています。

### 従来の人の手による養豚

種付け時期の判定など、ベテランしかできない作業が多くすぎる…。  
夜は面倒を見られない…。  
病気に気が付くことができない…。



### 豚舎にカメラやマイク、環境センサーを設置



カメラやマイク、環境情報を測定するセンサー(温湿度センサーなど)を取り付けることにより、これまで見えなかった農場の状況(夜間の様子や温度、飲水量など)を把握することができるようになります。

### IoTによりデータを24時間収集



人間が24時間眠らずに豚の様子を監視することは不可能です。しかし、この環境センサーは24時間豚を監視し、データを無線通信で送ることができます。

夜は帰ります





### IR担当者の声：

日本ハム(株) 広報IR部 マネージャー 稲田 英知さん

「スマート養豚」に期待されている、人手不足や技術の伝承の問題解決は、日本の畜産業界全体の課題となっています。

そのため持続的成長につながる、ニッポンハムグループの「スマート養豚」は、機関投資家から非常に高い関心を持たれています。

### AIにより豚の状況を逐次分析

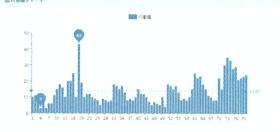
通常時



ヒートマップ



行動量チャート



環境センサーにより集めたデータと、経験やノウハウをインプットさせた情報をAIが分析し、健康状態を自動で判定・通知できるようになります。

### 効率的・効果的な飼育管理が可能

よい!元気だな!

異常だ!  
かけつけよう!

助かったよ!  
ありがトン!



モニターを通していつでも豚の状況を見ることができます。豚の病気や発情の兆候をいち早く察知できるようになり、より安定的な飼育成績(病気で死亡する豚の減少や適切なタイミングでの交配)を見込めます。

### 養鶏事業でも…?

スマート養鶏プロジェクト  
(日本ホワイトファーム(株))

東北事業所ではカメラ・モニターによる飼育を試験的に導入しています。機械設備に異常があれば警報が鳴り、その都度見に行けばよいので過度に巡回点検をする必要がなくなります。また、鶏群の散らばり具合をモニターで確認し、生産性向上に努めています。

## 潜入ルポ①

現場で輝く人に密着!

# スマート養豚プロジェクト

今は実用化に向けての  
試験段階。

AIはデータを蓄積することが  
必要なので、「これは豚Aで  
ある」、「これは豚Bである」  
というようにAIに覚え込ませ  
ているそうです。



前ページで紹介したとおり、

ニッポンハムグループではIoT・AIを導入した  
先進的な養豚技術の開発を進めています。  
現場で実際にどのようなことが行われているのか、  
関係者以外にとっては未知の世界。  
そこで、実際に現場で働く人たちに  
お話を伺いました。

### (株) NTTデータ様

製造ITイノベーション事業本部 第四製造事業部  
志田 慎一郎様

プロジェクトが始まり、養豚場の自然環境や生き物を育む労働環境の厳しさを実感しました。現在、その環境に適応するために技術面でいくつかの課題に直面していますが、未来の畜産につながる飼育支援システムの実現に向けて、メンバー一同、熱意を持って課題解決に取り組んでいます。将来的には御グループの農場に広く展開し、養豚場、ひいては畜産現場全体における労働環境の改善や生産性の向上に貢献したいと考えています。



吉田様 志田様 森田様

### 日本ハム(株)中央研究所

研究員  
助川 慎さん

AIは世間の認識と異なり限定的なことしか学習できないため、現場の経験を伺うたびに養豚の奥深さ、AIに学習させる難しさを感じます。また、目や耳、感触など、様々な情報を読み取って総合的に判断しているヒトってすごい、と改めて思われます。困難な研究ですが、ニッポンハムグループの現場力と(株)NTTデータ様のITの力を融合することで、未来の畜産を変えていく技術を一步一步前に進めていきます。



奥田さん 内田さん 助川さん

# インターフーム（株）で働く人に聞いてみた！



スマート養豚に取り組まれる  
きっかけ・背景を教えてください。

日本の生産事業は常に人手不足の状態が続いている、労働需要に対する供給は、常に足りないか、またはぎりぎりのところといった状況です。また、スキルの高い人財の高齢化や高い離職率も問題視されており、将来的に農場の運営が困難になる可能性は高いと思います。

そのような状況下で目をつけたのがAIの利用です。ベテランの目利きを機械に覚えさせたり、現場で所有している様々なデータとセンサーなどから得られるデータを活用して管理の効率化を図ることができる可能性が見えてきました。



インターフーム（株）知床第一農場  
主任 竹尾 羽奈子さん



実際に業務を進める上で  
どのようなご苦労や困難が  
ありましたか。

豚舎は大抵が人里離れた場所に位置しているので、通信インフラが弱い弱だつたり、風や雪の影響で通信用のアンテナが倒壊したり、

都市部にはない課題が多く見られました。故障も多く、そのたびに現地に行って対応する必要がありました。豚舎内は水を使用するため湿度が高く、カメラやセンサーといった電子機器の作動に最適な環境ではありませんでした。この条件下でも正常に作動し、かつ安価な機器の選定に苦労しました。また、設置時には、水や餌を止めたり、豚を移動させたりする必要もあり、日常業務への負担も発生しました。



導入前と導入後で、  
従業員の方の働き方や職場環境  
にどんな変化がありましたか。

まだ試行錯誤の段階ですが、例えば赤外線カメラを導入することで、これまで見ることがなかった夜間の豚の行動が見えるようになり、今までとは異なる視点を管理に取り入れることができました。また、日々の体重の増加や環境指標がリアルタイムで見られるようになったことで、管理意識の変化が見られました。

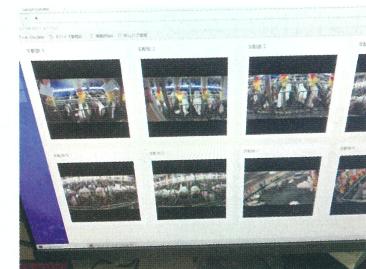


インターフーム（株）豚舎内部の様子



今後の抱負や挑戦していく  
ことなどを教えてください。

現在は農場のごく一部でしか使用していませんが、将来的には様々な地域、環境条件、豚舎構造にも対応できるようなものにしていきたいです。情報技術を活用する仕組みさえ作ってしまえば、後はデバイス開発とデータ活用の仕組みを作ればよいだけです。疾病や体重の増加の予測を通じて事故率（死亡率）低減やコスト削減につなげたり、感染症予防や快適な飼育環境づくりなど、養豚事業に関する様々な課題を解決していきたいです。



モニターに映る豚

## 潜入ルポ②

口蹄疫の被害を最小限に!!

# 口蹄疫ウイルス検査キット 中央研究所

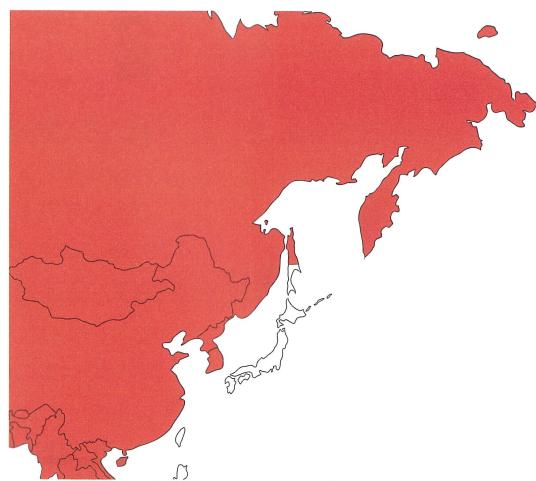
### 迫る口蹄疫の危機

日本では2010年以来、口蹄疫の発生はありませんが、周辺国では発生し続けています。

グローバル化によりヒト・モノの動きが活発になっているため、口蹄疫はいつ日本に再び侵入してもおかしくない状況です。

### 口蹄疫ウイルス検査キットの開発

ニッポンハムグループは国内初となる口蹄疫検査キット「NHイムノスティック 口蹄疫」を開発しました。この検査キットを使用することで早期発見につながり、口蹄疫の拡大を抑えることができると期待されています。被害を最小限に食い止めることでより安定的な食肉供給に貢献することができます。また、今後は当社グループの口蹄疫検査キットを世界中に普及させることにより、世界の畜産業に貢献することを目指しています。



■ 非清浄国の中、2008年度以降口蹄疫の発生が確認された国  
(2018年4月2日現在)

出典:農林水産省

### 口蹄疫とは?

牛・豚・羊などの家畜にウイルスが感染することにより起こる病気です。発熱したり口や蹄に水ぶくれが発生するなどの症状が起り、生産性を低下させます。日本では1頭でも感染が確認されたら、その周りの家畜も殺処分する決まりになっています。国際的にも広い範囲で畜産物の輸出入に大きな影響が出ます。

日本に入ってきたら大変だあ…



経済的被害が大きいんだモオ~



# 中央研究所研究員に聞いてみた!



開発にはどれぐらいの年月がかかりましたか。  
道のりは大変でしたか。

開発し始めてから7年ほどかかりました。今回のような検査キットは通常は製薬会社が開発することが多く、ニッポンハムグループとしては初めての経験でした。さらにこの検査キットは動物用の診断薬として国の承認を取得する必要があり、とても難しく苦労の連続でした。



口蹄疫キット開発により  
どれぐらい経済的被害を  
抑えることができますか。

2010年に宮崎県で発生した時の経済的被害は宮崎県内だけで2,350億円といわれています。口蹄疫が発生すると、殺処分や移動



「NHイムノスティック 口蹄疫」外観



目標に向けた意気込みを  
教えてください。

制限などで大きな経済的被害が出ます。大切な家畜を殺処分せざるを得なくなってしまった農家の方は経済的被害だけでなく心理的な痛手も計り知れません。今回開発した口蹄疫検査キットを活用することにより口蹄疫の発生を早期に発見し、感染が拡大することを少しでも食い止めることにより、経済的被害を抑えられたらと考えています。



日本ハム製の口蹄疫検査キットをぜひ世界中で使っていただきたいと思っていますが、「日本の食品メーカーが開発した検査キット」を海外に浸透させるのはとても時間がかかり、根気よく取り組む必要があります。しかし、口蹄疫の被害を抑え、畜産業を守るためにやり遂げなければいけない仕事だと思っていますので、熱意を持って挑戦していきたいです。



ニッポンハムグループ従業員  
に向けてひとこと!



日本ハム(株)中央研究所 研究員  
浦山 佳那さん

口蹄疫検査キットの開発は、川上から川下まで事業を展開する当社グループだからこそ達成できましたし、社会的な意義もとても大きな仕事だと思っています。これからも本キットの安定供給を通じて畜産業に貢献していきたいと考えています。

[ 04 / 他社を覗いてみよう! ]



サントリーホールディングス株式会社 コーポレートサステナビリティ推進本部

サステナビリティ推進課長  
内田 雄作様

サステナビリティ推進部 専任部長  
椎名 武伸様

日本ハム株式会社

CSR推進部 部長  
田中 恵津子

CSR推進部 次長  
小野 英一郎



## 他社を覗いてみよう!

# サントリーホールディングス(株)

## コーポレートサステナビリティ推進本部様

明日から実行する  
「マイチャレンジ宣言」(最終  
ページ参照)を内田様、椎名様に  
もご記入いただきました。

サステナビリティ先進企業の生の声を直接お聞きし、今後に活かすために、サントリーホールディングス(株)  
コーポレートサステナビリティ推進本部様との座談会を開催いたしました。

取り組みやご苦労された点など、ざっくばらんにお話ししていただきました。

**椎名** 「水と生きる」という言葉は、2005年に当時の佐治信忠社長(現会長)が、「これは非常に根源的な意味を含有している」と、会社のタグライン<sup>※1</sup>に制定しました。また、その2年前、2003年に稼働した九州熊本工場の水源涵養<sup>※2</sup>エリアに広がる国有林を対象として、初めて「天然水の森」を設定しています。

**内田** 天然水というのは我々にとってかけがえのない資源です。ウイスキーもビールも良質な水にこだわって工場を造っていますし、天然水工場もまさにそうです。天然水があってこそその製品なので、その共通項として水をとらえられるというところが、我々のサステナビリティ活動の特徴かなと思います。

**小野** それが社員を対象にした「天然水の森」の森林整備研修につながっているということですね。

**椎名** 森で研修といつても一般社員には何のことか分からないし、研修ですからやらされ感が強いわけです。「忙しい時になぜ森に行かなくちゃいけない」みたいな。でも森で実際に3時間くらい作業してもらうのですが、帰りのバスでは顔つきが全然違うのです。「行ってみないと分からないですね」と。営業マンもセールストークの中で、「実はこの前、森に行ってきました」みたいな話をするようになります。

**内田** 関西のほうでは、得意先様を森にお連れして商品についてよく知っていただくような取り組みも行っています。

**田中** その反響はどうですか。

**内田** すごくいいですね。商品の背景にあるストーリーというのが大事だと思うのです。効果を定量的に

※1 企業やブランドのペネフィット(優れた点)を分かりやすく伝えるキャッチフレーズ。

※2 森林の土壤が、降水を貯蓄し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。

は測りづらいところがありますが、体感していただくことで商品の価値を実感していただくことには貢献していると思います。

**田中** 当社は、林野庁の「法人の森林」制度を利用して、従業員を中心、「みんなの森林（もり）」と名付けた森林保全活動を行っていますが、御社のような社員研修には使っていません。いつもとは違う環境で、体を使って何かをするということは良い取り組みなのかなと思います。森の活用について当社で何ができるのか、改めて検討してみたいと思います。

**椎名** 我々は社内で「行動する」という言葉を使う時、あえて「考動する」という漢字を当てています。これは常に体で感じながら自分で考え、行動せよという意味でとらえています。

**小野** 「考動する」には「体感」が伴ったほうがよいということですか。

**椎名** 頭で考えるだけでは頭でっかちになってしまって袋小路に入ってしまうことがあります。課題を自分ごとにすることの一つの翻訳機能といいますか。それが「体感する」ということなのかなと思います。体で覚えたことは、スポーツでもそうですが持続しますよね。

**小野** ホームページを拝見したら、雨水が磨かれた天然水になるまでには最低20年かかると。「天然水の森」の水源涵養活動は、そういう未来を考えてやっているわけですよね。それを実行できるのは御社の「やってみなはれ精神」が原動力になっているのでしょうか。

**椎名** 我々の部署には森を作るスタッフが約10人いるのですが、飲料会社でそういう社員がいるところはあまりないと思います。登山に行く服装で会社に来ている人もいます。

**内田** 「午後から（仕事として）山に登ってきます」みたいな。「やってみなはれ」というのは、「やるならとことんやりなさい」というような意味もあり、森を作る活動を誰かに任せのではなく、社員が積極的に関わっています。

**田中** 当社ではCSRに関して5つの重要課題というものを掲げています。各事業部にこれらの課題解決に向けての施策の方向性を出してもらいましたが、非財務に取り組むということは、なかなか難しいです。

**椎名** 「ニッポンハムらしさ」「ニッポンハムならでは」という視点ではお考えになりませんか？我々がよくやるのは、主語を変えてみるということです。

**内田** 「サントリーは」というところをあえて同業他社に変えてみたらどうなるかと。

**椎名** 社内で「サントリーらしさはどこにあるんだ」とよく聞かれるのです。

**田中** 当社の一番の強みは食物アレルギー事業だと思っています。1996年に取り組みを始めましたが、なかなか知っていただく機会がなく、2015年には食物アレルギーの患者様、そのご家族を支援するために食物アレルギーに対する勉強、啓発、研究助成を目的として「ニッポンハム食の未来財団」を設立しました。そこからもっと積極的に情報を発信したほうがいいんじゃないかなとも言われます。また、社外からは食物アレルギー以外でも、良い取り組みをしているのだからもっと積極的に情報発信するべきとの声もいただきますが、事業部のコンセンサスを得るのに時間がかかるなど、スマーズにいかないことがあります。



サントリーホールディングス（株）「天然水の森」の森林整備研修の様子

## 2R+B<sup>\*3</sup>

\*1 30φペットボトル対象

\*2 国産ミネラルウォーターペット

ボトル（500ml～600ml）対象

2018年4月時点当社調べ

\*3 2R+Bは登録商標です



国産最軽量キャップ<sup>\*1</sup>

国産最薄ラベル  
(再生PET樹脂 80%使用)

国産最軽量ペットボトル<sup>\*2</sup>  
(植物由来原料 30%使用)

環境に配慮した容器包装の開発・導入を推進

容器包装の社会的な影響を強く認識し、1997年に「環境に係る容器包装等設計ガイドライン」を設定、容器包装の環境負荷低減を推進しています。なかでもペットボトルは、サントリーグループ独自の「2R+B(Reduce・Recycle + Bio)」戦略に基づき「環境への配慮」「使いやすさ」を併せ持つ容器の開発に注力。BtoB（ボトルtoボトル）への挑戦や世界初の植物由来原料を30%使用したペットボトルキャップ導入など、環境負荷低減活動が高く評価されています。

サントリーホールディングス（株）環境負荷低減への取り組み



**椎名** そこは粘り強く対話しながら徐々に変えていかなければいけない部分なのでしょうね。

**小野** SDGsについてはどうのようにお考えですか。

**椎名** SDGsは、こういうことは言われる前からやっているじゃないかという受け止め方が社内では多いです。ただ、そうはいっても貧困や飢餓など、日本にいるとちょっとピンと来ないようなテーマもあると思うので、分かったような気になってしまふのも危険かなとは思います。

**田中** 水の削減など環境に対する取り組みは工場のほうがやりやすいということで、一部、SDGsの中の項目を自分ごととしてMBO(目標管理制度)に入れている工場があります。そこでは発表会なども行っています。

**椎名** 目標を設定しているということですね。

**田中** そうです。世界の共通テーマなので分かりやすいということと、特別なことをする必要はなく、今までの取り組みともつながっていますし、決して難しいことをするわけではないと説明しています。

**椎名** それがいいですよね。まったく新しい概念とは考えないほうがいいと思います。

**田中** 17の目標だけを見て勘違いしてしまうこともあるので、その後ろにある169あるターゲットをかみ砕いて伝えて、自分ごとにしてもらうということを考えています。

**小野** プラスチックについてはどのような取り組みを行っていますか。

**内田** 5月末にプラスチック基本方針を策定しました。2030年までにグローバルで使うペットボトルをすべて

リサイクル素材、あるいはバイオ由来素材100%で作るという高い目標を掲げています。グローバルに見てもそこまでの高い目標を掲げている企業は飲料業界にはないので、そういう意味では掲げたものをどのように達成していくかを関係部署と検討しているところです。

**田中** そういう数字があるからこそ、バックキャストの発想ができるのですよね。当社も具体的な目標設定が必要だと思います。

**内田** 私は、「水と生きる」を掲げるサントリーにとって廃プラスチック問題は最重要課題の一つだと考えています。ペットボトルを大量に使う企業として大きな責任も感じています。自分たちだけでなく世界中を変えていくような取り組みをしなければいけないんだろうと思っています。難しいですが、やりがいのある仕事です。

**田中** CSRは慈善活動ではないので、必ず何かしら事業に貢献することが重要だと思っています。20年後30年後の企業価値を高めることを前提に、進めていきたいと思っています。

**椎名** それをまず自分が信じるということですね。まったく同感です。

**小野** 「体感」なども取り入れながら、一人ひとりを考える動きに変えていけるように働きかけなければいけないと感じました。本日はどうもありがとうございました。

## グルーフ 従業員の皆様へ

弊社は社会課題を解決し、より良い未来を実現するために、持続可能な開発目標「SDGs」が国連サミットで採択されました。

ニッポンハムグルーフでは、「中期経営計画2020」において、「持続可能性の追求」を経営方針のひとつに掲げ、事業の発展と社会課題の解決を両輪として推進しています。このことは、NI 企業理念の実現にもつながります。

社会で何が起き、今後どのような変化や危機が予測され、私たちは何をすべきか。この冊子を読むことで、考えるきっかけとして下さい。時代を超えて支持され、選ばれ続ける企業となるためには、一人ひとりが業務と社会課題の関係性を理解し、自分ごとに捉え、行動を起こすことが、必要です。



日本ハム株式会社  
代表取締役社長

畠 佳秀

# アンケート実施中!

「CSRジャーナル」をお読みいただき、ありがとうございました。  
皆様のご感想・ご意見をお聞かせいただきたく、アンケートへのご協力を  
お願ひいたします（メールでも同様のアンケートを配信いたします）。また、いただいたご感想・ご意見は社内向けCSRメールマガジンなどで紹介させていただくことがございますので、予めご了承ください。

回答期限は2019年11月15日です。

アンケートはこちらから！



[https://www.nhbe.biz/enq/?com=NHCSR  
&id=20190808154314](https://www.nhbe.biz/enq/?com=NHCSR&id=20190808154314)



あなたなら、未来に向けてどんな行動ができますか？

「マイチャレンジ宣言」としてご記入いただき（P.25写真参照）、職場でもぜひご活用ください！

## マイチャレンジ宣言

CSRジャーナルに関する  
お問い合わせ先

日本ハム株式会社 CSR推進部

TEL : 03-4555-8084

※無断転載はご遠慮ください。

ニッポンハムグループ 社内誌「CSRジャーナル」は、環境に配慮した印刷物として以下のマークが付与されています。



印刷工程で出る有機物質を含んだ廃液が少ない、「水なし印刷方式」を採用しています。



植物油100%のインクを使用しています。



この印刷物には、FSC®森林認証紙を使用しています。